

科目名	創造プロジェクトⅣ
英文科目名	Products Development Project Program IV
対象	2018建設学科
配当年次	4年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	卒研指導教員
単位数	1.5

授業の概要および到達目標	<p>授業の概要： 土木、建築に関する論文や文献を学習しながら、世の中で取り組まれている研究テーマ、技術開発の動向、建設産業に存在する問題などを理解し、それらに対する考え方、取組み方、分析の仕方などの知見を取得し、卒業研究にも反映できるようにする。</p> <p>到達目標： 卒業研究、制作および設計に資する知見を修得することができる。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>【事前】 これまでに学習した内容から関連項目を取り上げよく理解しておくこと。 【事後】 日々の作業内容を記録に留めるとともに、視野を広く持ち常に新しい知見を収集するように努めること。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>研究室ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>既往文献の調査</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>既往の文献取りまとめ</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>計画書の作成方法の指導</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>実験方法、製作方法、設計方法の指導</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>データ解析方法、プレゼンテーションの指導</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>研究成果取りまとめ</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>卒研発表へ向けた指導</td> </tr> </table>	第1回	研究室ガイダンス	第2回	既往文献の調査	第3回	既往の文献取りまとめ	第4回	計画書の作成方法の指導	第5回	実験方法、製作方法、設計方法の指導	第6回	データ解析方法、プレゼンテーションの指導	第7回	研究成果取りまとめ	第8回	卒研発表へ向けた指導
第1回	研究室ガイダンス																
第2回	既往文献の調査																
第3回	既往の文献取りまとめ																
第4回	計画書の作成方法の指導																
第5回	実験方法、製作方法、設計方法の指導																
第6回	データ解析方法、プレゼンテーションの指導																
第7回	研究成果取りまとめ																
第8回	卒研発表へ向けた指導																
教科書	各教員から指示される場合がある。																
参考書	各教員から指示される場合がある。																
主な実験・実習機器	各教員の指示による。																
成績評価の方法	原則として取り組み姿勢(50%)、課題(50%)により評価する。																
履修上の注意点	実施要領などは所属研究室教員の指導に基づくため、これに適切に対応のこと。 提出課題等の評価は各教員よりその都度フィードバックする。																

科目名	卒業研究および制作
英文科目名	Graduation Project
対象	2018建設学科
配当年次	4年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	卒研指導教員
単位数	6

授業の概要および到達目標	<p><b>授業の概要：</b>  これまで体得した技能・技術、知見、インターンシップでの経験などを総合した作品の制作若しくは研究をおこなう。学生は各自でテーマを選定し、企画・設計（計画）・製作（実行）・検査・評価までのプロセスを自らおこなうとともに、学科で定められたスケジュール管理についても各自が実施し、卒業研究発表会にてその成果をプレゼンテーションを行い、基準以上の評価を得る。</p> <p><b>到達目標：</b>  学士に値する素養を身につけることができる。</p>																
準備学習(予習・復習)	<p>【事前】 これまでに学習した内容から関連項目を取り上げよく理解しておくこと。  【事後】 テーマである解決すべき大きな課題を常に念頭におきながら、日々の成果を積み重ねるように努めること。</p>																
授業の内容	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>研究室ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>既往文献の整理</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>既往の文献の報告</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>計画書作成</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>実験、製作、設計の実施</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>データ解析、プレゼンテーションの実施</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>梗概、論文、発表用スライドの作成</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>発表</td> </tr> </table>	第1回	研究室ガイダンス	第2回	既往文献の整理	第3回	既往の文献の報告	第4回	計画書作成	第5回	実験、製作、設計の実施	第6回	データ解析、プレゼンテーションの実施	第7回	梗概、論文、発表用スライドの作成	第8回	発表
第1回	研究室ガイダンス																
第2回	既往文献の整理																
第3回	既往の文献の報告																
第4回	計画書作成																
第5回	実験、製作、設計の実施																
第6回	データ解析、プレゼンテーションの実施																
第7回	梗概、論文、発表用スライドの作成																
第8回	発表																
教科書	各教員から指示される場合がある。																
参考書	各教員から指示される場合がある。																
主な実験・実習機器	各教員の指示による。																
成績評価の方法	原則として取り組み姿勢(20%)、企画書(20%) 梗概(20%)、本論(20%)、発表(20%)により評価する。																
履修上の注意点	卒業研究着手条件：104単位以上取得し、2クォータ以上の履修期間を必要とする。 研究成果への評価は各教員よりその都度フィードバックする。																

科目名	一般専門インターンシップ
英文科目名	Specialized Internship
対象	2018建設学科
配当年次	4年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	一般専門IS指導教員
単位数	8

授業の概要および到達目標	<p>1. 授業の概要 専門知識の習得を目的として、専攻するコースに応じた企業を選定し、仕事の流れや段取り、さらに工程上の役割や計画・管理・安全について就業体験する。なお、一般専門インターンシップでは40日（8単位）または80日（16単位）を選択することができる。</p> <p>2. 到達目標 卒業後の進路に結び付いた就業体験により、職業人としての心構えを身につける。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>【事前】 インターンシップ受入先企業の事業概要について調査する。</p> <p>【事後】 就業体験を踏まえ、各自の専門性について不足している点を補強する。</p>
授業の内容	<p>第1回 インターンシップ受入先企業の選定</p> <p>第2回 インターンシップ受入先企業の調査研究</p> <p>第3回 社会人・職業人としての心構えの習得</p> <p>第4回 インターンシップ計画書の作成と課題設定</p> <p>第5回 インターンシップ開始報告書と実習予定表の作成（研修ノート）</p> <p>第6回 日報と週報の作成（研修ノート）</p> <p>第7回 インターンシップ実習報告書の作成</p> <p>第8回 インターンシップ実習報告書に基づいた課題と研修成果の発表</p>
教科書	インターンシップ受入先企業から指示される場合がある。
参考書	インターンシップ受入先企業から指示される場合がある。
主な実験・実習機器	インターンシップ受入先企業から指示される場合がある。
成績評価の方法	インターンシップ実習報告書（30%）、研修ノート（30%）、受入先企業のインターンシップ評価票（40%）
履修上の注意点	一般専門インターンシップでは40日（8単位）または80日（16単位）を選択することができる。 研修ノートについては、採点した後に返却する。

科目名	建築士専門インターンシップ
英文科目名	Internship for Architecture (advanced course)
対象	2018建設学科
配当年次	4年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	建築士専門IS指導教員
単位数	8

授業の概要および到達目標	<p>1. 授業の概要：建築設計監理に関わる技術者として活躍するために求められる、情報や意見を他者に伝える能力、他者の発信した情報や意見を理解する能力を、学外（民間企業・公的機関等）における体験を通じて身に付けることを目的とする。</p> <p>【建築士インターンシップの派遣先認定条件】</p> <p>1) 設計事務所登録が行われていること。  2) インターンシップの業務内容（職種）に、設計、監理、管理業務のいずれかが含まれ、かつ建築に関して総合的に学ぶ内容と認めること。  例：建築関係ゼネコン・サブコン、建築関係工務店、建築設計事務所、官庁(建築部門)等</p>
準備学習(予習・復習)	<p>【事前】 インターンシップ受入先企業の事業概要について調査する。基礎インターンシップで学修した内容、また1年次ならびに2年次の専門科目で学修した内容から建築設計監理と関連する項目を取り上げて復習しておくこと。</p> <p>【事後】 就業体験を踏まえ、各自の専門性について不足している点を補強する。なお、PBL型インターンシップ等では派遣企業ならびに担当教員より事前に課題が指示されるので、積極的に取り組むこと。</p>
授業の内容	<p>第1回 インターンシップ受入先企業の選定</p> <p>第2回 インターンシップ受入先企業の調査研究</p> <p>第3回 社会人・職業人としての心構えの習得</p> <p>第4回 インターンシップ計画書の作成と課題設定</p> <p>第5回 インターンシップ開始報告書と実習予定表の作成（研修ノート）</p> <p>第6回 日報と週報の作成（研修ノート）</p> <p>第7回 インターンシップ実習報告書の作成</p> <p>第8回 インターンシップ実習報告書に基づいた課題と研修成果の発表</p>
教科書	派遣先からの指示により追加指定される場合がある。
参考書	派遣先からの指示により追加指定される場合がある。
主な実験・実習機器	派遣先からの指示により追加指定される場合がある。
成績評価の方法	研修ノート（30%）＋インターンシップ実習報告書（30%）＋受入先企業のインターンシップ評価票（40%）。
履修上の注意点	<p>建築士基礎インターンシップは、建築士法改正に伴う指定科目のため、この受講は2009年度新入生からとなる。インターンシップの詳細は3年次第4Qにおいて開催される説明会で告知されるので、受講予定者は必ず出席すること。なお、本インターンシップは一級建築士受験の指定科目扱いとなるため、派遣先は建設学科にて予め承認を受けた範囲に限定する。</p> <p>研修ノートについては、採点した後に返却する。</p>

科目名	測量専門インターンシップ
英文科目名	Specialized Internship for Survey Practices
対象	2017建設学科
配当年次	2年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	測量専門IS指導教員
単位数	8

授業の概要および到達目標	<p>1. 授業の概要          本学卒業時に測量士補になることを目指している受講生が、受入企業において測量現場での外業および内業を40日間にわたって行い、測量実務の応用・発展技術を習得する。</p> <p>2. 到達目標          実務現場における専門・応用的な測量業務ができるようにする。</p>
準備学習(予習・復習)	<p>【事前】 三角関数などの数学の基礎的な事項を予習しておくこと。</p> <p>【事後】 実習後も単に計算処理にとどまらず、業務としての位置づけを考えながら復習すること。</p>
授業の内容	<p>第1回 インターンシップ受入先企業の選定          受入先企業は、建設関連業(測量業、地質調査業、建設コンサルタント業、補償コンサルタント業)の登録を行っている企業・事業所か、測量、不動産(土地・建物)の調査、不動産登記、境界標の設置等、測量士や土地家屋調査士が測量業務を行っている企業・事業所である。</p> <p>第2回 インターンシップ受入先企業の調査研究</p> <p>第3回 社会人・職業人としての心構えの習得</p> <p>第4回 インターンシップ計画書の作成と課題設定</p> <p>第5回 インターンシップ開始報告書と実習予定表の作成(研修ノート)</p> <p>第6回 日報と週報の作成(研修ノート)</p> <p>第7回 インターンシップ実習報告書の作成</p> <p>第8回 インターンシップ実習報告書に基づいた課題と研修成果の発表</p>
教科書	企業・事業所の指示による。
参考書	最新測量学(森北出版)、よくわかる測量実習(コロナ社)
主な実験・実習機器	受入先で指定された測量機器、測量データ解析ソフトなど
成績評価の方法	インターンシップ実習報告書(30%) + 研修ノート(30%) + 受入先企業のインターンシップ評価票(40%)
履修上の注意点	<p>本インターンシップは、GSコース履修者以外は履修できない。</p> <p>GSコースの履修登録は、希望者の中から上位の成績順に受講者を決定する。</p> <p>レポートについては、採点し添削したものを次回の授業で返却する。</p>

科目名	社会人基礎力育成講座ⅠⅤ
英文科目名	Fundamental Competencies for WorkingPersons IV
対象	2018建設学科
配当年次	4年生
開講時期	時間割表を参照
担当教員	社会人基礎力担当教員
単位数	1

授業の概要および到達目標	<p>【授業概要】① 人を見る力(人から学ぶ力)・人に伝える力を身に付ける ② 自ら考える力・行動する力を身に付ける  ③ 課題・目標の設定の仕方を身につける ④ 将来への確かな経験へと繋げるための準備をする  ⑤ 社会で生活する上での「マナー」「コミュニケーション」を普段の日常生活から考え、実践する</p> <p>【到達目標】大学生活を通じて社会人基礎力を身につけ、学業を自分から取り組む姿勢を身につける  経済産業省が取りまとめた社会人基礎力とは、前に踏み出す力(主体性・働きかけ力・実行力)・考え抜く力(課題発見力・計画力・創造力)・チームで働く力(発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力)の3つの能力・12の能力要素から成っている。社会人に向けて1～3年までの社会人基礎力で身につけて3つの能力・12の能力要素を確認し、身につけることを目標とする</p>
準備学習(予習・復習)	<p>【予習】 前回の授業の内容を振り返る</p> <p>【復習】 授業で得た気づきを今後の学生生活に活かす</p>
授業の内容	<p>第1回 社会人基礎力を振り返る①  ～「主体性」「行動力」「発信力」「コミュニケーション力」の活かし方～</p> <p>第2回 社会を知り、未来に繋げる①  ～自分のやりがいを見つける～</p> <p>第3回 社会人基礎力を振り返る②  ～「傾聴力」「柔軟性」「規律性」の活かし方～</p> <p>第4回 社会を知り、未来に繋げる②  ～社会に求められる人材とは～</p> <p>第5回 社会人基礎力を振り返る③  ～「課題発見力」「計画力」「創造力」「状況把握力」「ストレスコントロール力」の活かし方～</p> <p>第6回 社会を知り、未来に繋げる③  ～社会に出るときに活かせる自分の強みとは～</p> <p>第7回 社会人基礎力を振り返る④  ～3つの能力・12の能力要素を確認し、達成度を確かめる～</p> <p>第8回 社会を知り、未来に繋げる④  ～大学を卒業する前に～  社会人として必要なマナーを確認し、身につける</p>
教科書	必要に応じて資料を配布する(キャリアプランノート持参のこと)
参考書	特になし
主な実験・実習機器	特になし
成績評価の方法	授業への出席度50%、授業内レポート50%
履修上の注意点	社会人基礎力育成講座(Ⅰ～Ⅳ)は、4年生まで継続して履修することが望ましい レポートについては、次回授業で返却する。